

令和7年度第6回陸前高田市津波避難計画策定アドバイザー会議 議事要旨

- 開催日時 令和7年4月8日（火）午後2時00分から午後6時30分まで
- 開催場所 陸前高田市消防防災センター2階 防災研修室
- 出席委員 牛山素行委員長、加藤孝明委員、関谷直也委員
中村吉雄委員、福留邦洋委員
- 配布資料
シミュレーション概要説明資料
- 経過概要
 - 1 次第の2「津波避難シミュレーションのしくみと特徴について」について、加藤委員から説明が行われた。
 - 2 協議事項ア津波避難シミュレーションの経過報告について、加藤委員から説明が行われ、委員による意見交換が行われた。
 - (1) 説明内容概要
 - ア 高田松原津波復興祈念公園から気仙小学校に向かう交通量、避難車両について
 - イ アバッセたかた等のまちなか周辺駐車場からコミュニティホールへの避難車両について
 - ウ 高田松原運動公園から高田小学校に避難する車両について
 - エ 高田松原海水浴場及び高田松原運動公園から夢アリーナたかた方向への避難車両について
 - (2) 検討課題
 - ア 夢アリーナたかた駐車場入り口付近における車列形成への対応
 - イ 高田松原海水浴場からの避難に係るボトルネックへの対応
 - (3) 委員による主な意見
 - ア 高田松原海水浴場
 - ・ 高田松原海水浴場も集客施設であり、利用者数の上限を設けたりするのではなく、安全に逃げられるキャパシティを大きくする現実的な対策を検討する必要がある。
 - ・ 対策として、エリア制限やゾーニングは実施可能ではあるが、どの程度の効果があるか。
 - ・ 階段がボトルネックならば、階段を増やせば良い。現状は階段と階段の間隔がかなり広いので、階段が無いところでも、掴まれるようなものを整備すれば登ることはできるし、松林がボトルネックならば、新たな通路を作るなどの対策が考えられる。
 - ・ 立ち入る場所をある程度規制して広い範囲に散らばらせず、使用する範囲を狭めておくことは一番簡単にできる対策ではないか。
 - ・ 高田松原津波復興祈念公園は、防潮堤の内側であることを考えると、高田松原海水浴場は一番リスクが高いので、ここにいる人を速やかに、少なくとも防潮堤を越えさせることができる対策が優先順位としては一番高いのではないか。
 - イ 三陸沿岸道路からの流入について
 - ・ 大きな地震が発生し、三陸沿岸道路を走行中の車両を陸前高田長部ICから一般道に下ろされた場合、駐車場から溢れた車列が浸水想定区域に入ってしまう可能性がある。

- ・ 陸前高田 I C から一般道に下ろされた車両が消防防災センター付近に滞留すると緊急車両の通行にも影響が出かねない。

ウ アバッセたかた周辺について

- ・ 本丸公園に徒歩で避難する場合、現状の細い階段で、全ての人を逃がせるのかどうかの検証は必要で、おそらく何らかの改善が必要になってくる。
- ・ 実際に避難誘導をする時は、車椅子利用者は車で避難し、それ以外の歩ける人は徒歩で避難するなど、日頃から啓発しておく必要がある。

エ 夢アリーナたかた及び県立高田高等学校について

- ・ 県立高田高等学校へ向かう道路の入り口がかなり狭く、見通しも悪いので、スムーズに車両が動けないことや、旧道との合流で滞留する可能性も考えられる。
- ・ 先に夢アリーナたかたに入れて、駐車場がいっぱいになったら県立高田高等学校に誘導するというほうが現実的ではないか。
- ・ 夢アリーナたかたの駐車場から入れた場合、駐車場への入庫待ち車両の車列が伸びて、浸水想定区域に入ってしまう可能性がある。

3 その他「漁村集落地区についての現状報告と今後の進め方について」について、事務局より説明を行った。

4 事務局から、今後のスケジュールについて説明を行った。

また、次回第7回会議日程については、別途調整することとした。